

1930年1月22日〔母宛の手紙〕

ウィチタにて

(あと、たったの3日飛べば、西海岸です!)(92)

愛するお母様

私達は、現在南へ向かっています。半分以上来たら、暖かくなって来ました。風邪はひいていませんが、いくらトゥードルダムの服を着ていても、冬の開放座席の飛行機の中は、居心地が良いとはいえません。

デトロイトではアナ・フェイ⁽⁹³⁾に会いましたが、とても素敵なお人でした。それから、娘さんの“フェイ”は可愛らしくて信じられないほどで、アナ・フェイが彼女にとっても優しいのよ。みんな、私が出産を控えているのを知っているみたいでした。でも、アナ・フェイは感じ良く接してくれました。彼等の家は素敵で、暖かく、明るい家です。アナ・フェイは私を彼女の寝室に連れて行ってくれましたが(その間、ご主人のダン¹は階下²でお客様をもてなしていました)、それがとても快適なお部屋なのです。彼女は前よりも、もっと素敵でもっと親しく感じました。それに、思いやりや洞察力もあります。

私達が家を持って、静かに暮らせることについて一般的な問題を、彼女が話していました。が、「私には、あなた達がどうしてそんな状況に耐えられるのか、わからないわ」と言ったすぐ後に、

「もちろん、あなた達にはお互いがあるわ、それがすべてよ」

と、とても単純に付け加えました。そんなふうに言ってくれるなんて、彼女のことを本当に良い人だと思いました。目新しい言葉ではありませんが、素直に彼女はそう言ったのです。それは、陳腐な言い方でもありませんでした。それから、彼女は、フェイが奇蹟であると言ってました。「まったく奇蹟よ。」

ほら、お母様わかるでしょう。みんなこの頃は、奇蹟のことを話した

(92) リンドバーグ夫妻は、自分達の新しい単発機の最終建造を監督し、受け取るために、カリフォルニアに行く途中だった。

(93) アナ・フェイ・ブロッサー(ダン・コールキンズ夫人)。エングルウッドの隣人で、子供の頃からの友達。現在はレイトン・スティーヴンス夫人。

りするのは、ほとんど嫌がってるでしょ、真面目なところ。そのことでも、私はとても嬉しかったの。

シャモアのスーツが、とても早く届きました。乗馬ズボンとブラウスとセーターではなく、スーツをもう着ています。それほどかさばらず、軽くて暖かいわ。私の鼻のことがコロンバスの新聞に書いてありましたが、『赤い葡萄のように』後部搭乗席から突き出していた』とのことです。これってなーによ!!

チャールズと私が、ホテルのロビーを移動するところを、お母様に見ていただきたいわ。わかるかしら、それほどひどくないの。普通の洋服を着ている時以上には、誰の注意も引かないのです。チャールズだったら、「どうせなら、何にも着ないでロビーを歩いてもいいんじゃないか」って言うのよ。今以上の注目を引くことはないもの。それに、あっちを向く人だっているかもしれないわ。

昨日セントルイスで、小雨の中を散歩しました。上品な茶色い石造りの落ち着いた立派な家が建っている、静かな通りを歩きました(“キングスベリー・ブレース”とかいう、住民以外には両方の入り口が閉鎖されている通りです)。建物の周りには、かなりの広さの芝生と茶色のレンギョウの繁み、砂場がありました。こういう地区には、子供達と乳母車以外は入って来ません。とても安らぎを感じました。窓に掛けてあるリースを全部見て歩きましたが、ある家の窓の中に可愛らしい赤いシクラメンがいくつか見えたので、お母様のことを考え、シクラメンを電報で贈ろうとしました。でも、それが、お母様のところに届くとは思えないので、代わりに手紙を書きます。それに、電報でシクラメンが届いたとしても、もちろん遅くなると思います。でも、私がどんなふうにお母様のことを考えたかを、お知らせしたかったのです。

日曜学校のチャペルでのお説教、それから……ずっと、ずっと昔の新年の決心以外は、元日は私にとって特別の意味はありません。でも、みんなが全員揃う大事な日でした。

その日の飛行の後で、休みながら、詩を一つか二つ覚えます。そうすると、私が飛行する時に、寒すぎたり、外を見るのも退屈な時の慰めになるのです。それで、私の頭の中で詩をグループ分けします。いろいろな出来の良くないタイトルをつけて、悲しい詩のグループと、楽しい詩のグループに分けるのです。メランコリーな詩と、楽しい詩はたくさんあるのですが、純粋に抽出された喜びや悲しみの詩歌がほとんどないように思えます。喉を締めつけられるような詩には、滅多にお目にかかりません。

純粋な幸福に関しては、ロゼッティの『誕生日』の溢れんばかりの幸福感でしょう。それから悲しみに関しては、自分の息子の死についてジョン・ボーマント卿の書いたもののほど、私が感動したものは見つけれませんでした（『リア王』の中の数行を除いては）。最初の10行は完璧で、簡潔で、胸を引き裂くようだと、私は思います。オックスフォードの本に出ているので、お母様はきっと知ってらっしゃるわ。

愛する息子、ジャーヴァス

愛する主よ、
私の息子を迎え入れて下さい。
この子の私へのこよなく強い愛は
友情のように、
自然の摂理も、
この子のいたいけな歳も、

はるかに超越するものでした。

この子の顔をみれば
私のつらく深い悲しみは、
すべて鎮められたのです。

この子の清い魂は、
私の分身のあのはかない肉体に
7歳までの運命を授かりましたが、
主の御国では、
私の一部として滞らせて下さい。

この子は、
港である御国に、私が近づいている証として
送られたのですから。

最も美しい詩は、この分類にはおそらく入らないので、くだらない分類の仕方ですが、頭を使う以外には（あるいは、むしろ記憶かしら）、何も出来ないけれど、時間が実にたっぷりあるものですから。

たぶん、お母様も、海が荒れなければ、船の上でそんな時間が持てるかもしれません。ああ、お母様の猛烈に忙しい出発前の何日間かのことを考えたくありません。旅に出発するほど恐ろしいものが、他にあるでしょうか？ 一旦、出かけてしまえば、大丈夫なのですが、最後の瞬間が地震とけいれん発作のようなものです。それに、石から引きはがされるカタツムリみたいな気がするのです。私はそれが嫌で仕方がないのですが、お母様の場合は、私の十倍大変ですね。

クリスマスの間は、すっかりお世話になりました。いろいろなことで、

私はとても気が軽くなりました。

コンのパーティーはどうしたかしら、それからエリザベスはよく休んでいるかしら。みんなによろしくね。

お母様へ！

1月5日(だと思います) 月曜日〔母宛の手紙〕

ロサンゼルスにて

私達、マダックスさんのお宅にお世話になってます。私は元気になって、体重が増えましたが、しばらくの間ここに落ち着けるのがすごく嬉しいです。マダックスさん御夫妻は、私達にとってもよくして下さいます。でも、私達はどこへ行っても、ご迷惑になるので、あまり長いことお邪魔をするわけにはゆきません。

ここは、日向ぼっこをするほどには暖かではありませんが、太陽は出ていますし、緑の芝生があり、隣の塀の上に黄色の薔薇が1輪咲いています。そして今朝は目が覚めると、鳥の声が聞こえ、6月のさえずりのように思われました。6月ならいいのと思います。エングルウッドの家で、お母様と私と二人でね。

今日の午後には、私達は新しいロッキード社の飛行機で飛びます。チャールズは待てないのです。何箇所か変更してもらいたいところがあると、彼が言っています。ファルコン機のように風が入り込まない、閉鎖式のコックピットにしようかと考えています。そうすると、帰りの飛行がずっと楽になります。彼と私(たぶん)は、サンフランシスコまで試験飛行をすることになっています。東への飛行については、即断を避けて、無理をしないつもりです。ご心配なく。また、さようならを言うことになるとはいえ、お母様に会えればいいのに……。

1929年1月13-14日〔妹宛の手紙〕

ロサンゼルスにて

やさしいコン

カリフォルニアは寒いよ。とてもとても寒い。それに、家の中には太陽がサンサンと射しこむはずだし、南カリフォルニアのイメージとは違うみたいなの。でもここは楽しいところよ。

こちらに飛んで来る時は、開放座席のファルコン機では、どんな人でも本当に暖かくないけれど、私が心配していたほどひどくありませんでした。でも、チャールズは、ロッキード機には閉鎖式のコックピットをつけるのです。最高にワクワクするような飛行機なのよ。本当よ。初飛行であればどのスリルを味わえるとは、思っていなかったのよ。それは、人が絶対に完成されたものに夢中になって圧倒される時の、人生の中でも滅多にない瞬間の一つね。

熟練した騎手が、完璧に調教されたポロ用の馬を思うがままに乗りこなすのを見たり、パナマ運河の閘門が開くのを見ていたり、ハロルド・サミュエルがバッハを弾くのを聞いたりする時のように……。パワーと文句なしの操作性と柔軟性を備えているの。シロップのようにスムーズで、敏感で従順な機体。いえもう、私は飛行のスリル(ルルルルルル!)を初めて味わったのよ。

チャールズは、もちろん、ガンガンに幸せで生き生きしてるわ。

それから、いろんな方々のこと。もちろん、マダックスさんの奥様。あなたに彼女のことは話したわね。相変わらずみごとなのよ、彼女。それからマダックスさんのご主人の方(TAT社の西部地区の最高責任者)は、東部地区から、彼が「取っている経済政策では大きな間違いを犯している」という電報が入ったのだけれど、それに対しての彼の返電が

(とっても彼らしくて私大好き)、「間違いを犯さなかった人間は、何もしたことがない奴だ!」というものよ。

でも、一番びっくりしたのは、アミーリア・エアハートで、彼女はここに最初の4日間いたの。彼女は最高に驚異の人。チャールズと同じくらいに素晴らしいと、私は思うの。その度量の広さでは、彼等があまりに似ているので、私はびっくりしてしまいます。チャールズは、それに気付いていないの。でも、彼女とそれほど話していないから……。彼女の頭脳は明晰で、感情を交えない目を持っていて、冷静な気質、科学者の平衡感覚を持っているのよ。とにかく、私は彼女が好きだわ。

私は暖房を背にして、前にテーブルをおいて座っているの。大学の時、いつもしていたように……。ここでは、寒くなると誰も思っていないの。でも雨は最高にみじめで、最高に冷たくて……。最高に凍みとおる雨よ。ノーサンプトンの日曜日の雨よりもひどいわ。

私は、暖炉と花、それも春の花だらけのお部屋が欲しいわ。灰色の窓際には、水仙とラッパ水仙の植えてある長いプランター、お部屋の真ん中にあるテーブルの上には、生き生きした白いフリージアがいっぱい生けてある大きな広口瓶。それから、暖炉の火が映るところに赤いチェアリップ。そして、天井まで届く本棚と大きな広々とした机を2つ、そのうちの1つにはあなたが座るのよ。それで、ダッフィンは暖炉の前にね。

ランチは、私達が自分で作るの。(黄色のテーブルクロスで、真ん中にミモザの花を置くのよ。)コンソメスープ(缶詰)と一人に1個ずつのポーチド・エッグ、それから新鮮なアスパラガスをトーストにのっけて、そうして、あなたの最近の物語を私に読んでくれるのよ。

愛してるわ。あなたがいなくて寂しいわ。

1930年1月18日 土曜日〔母宛の手紙〕

飛行中に書かれたもの

大好きなお母様

私達は、サンディエゴへ向かう途中です。チャールズが、マダックスさんの奥様、坊ちゃんのジュニア、そして私を、客室の付いたロッキード機で連れて行ってくれるところです。あちらに着いたら、私達三人は、チャールズが興味を持っている〈大型グライダー〉で遊んでいる間に、楽しいドライブに出かけようと思っています。

夕べは、メアリー・ピックフォードとダグラス・フェアバンクスと一緒に、“ピックフェア邸”で夕食をいただきました。私は出かけるのが少し怖かったのですが、でも楽しい時を過ごしました。メアリーはとても感じの良い人で、一種の繊細な良識の持ち主です。彼女は堅実で信頼できる誠実な人だと、私は思いました。こういったことはすべて、彼女のイメージに合わないし、褒めているようには聞こえないと思いますが、私はそのつもりです。フェアバンクス氏は、魅力的で、最高にほれほれするような面白い人で、とても愉快的、興味をそそる話し手です。彼は、人生を豊かに熱烈に愉しんでいるという、あの爽やかな感じを人に与えます。私は彼がとても好きになりましたし、二人とも、私をくつろがせてくれ、楽しい気分にしてくれました。私は、「堅苦しくて嫌だと思うだろう」と考えていたのです。チャールズは、フェアバンクス氏と楽しく手品を披露していましたが、惨敗してしまいました。

……………着陸です……………

月曜日 ロサンゼルスに戻ってから

また忌むしい墜落事故です。今は、これ以上は書けません。マダックスさん達の、とても親しいお友達と奥様が乗っていました。それから、

他には15家族、16人の人達。……

1930年1月24日〔義母宛の手紙〕

ロサンゼルスにて

お母さま

お母さまが、先日のTAT社マダックス機の墜落事故⁽⁹⁴⁾のことを覚えていらっしゃることは、わかっております。東部ではどれほど報道されたのかは、存じません。もちろん、こちらでは、近くで起きたことでもあり、私達の頭の中では圧倒的で過度に強調されました。マダックスさんの奥様は、あの飛行機で亡くなられたお友達のブラウン御夫妻のお子さんのお世話をしていらっしゃいます。

お母さまのもとにこの手紙が届く頃には、ほとんどの方達の記憶からは薄れてしまっていることですが、こちらのいくつかの新聞は非常に見世物的に残酷な話を、それも誤った記事を掲載しましたので、事故を調査し判断を下した人達が（チャールズや、その他の人達）何を考えているのか、多分お母さまが知りたいと思っていらっしゃると思いました。

チャールズは新聞に声明を出しましたが、声明はその読者に正しく伝わる前に、大抵事実が歪められてしまうのです。

2機のTAT社のマダックス機が、アグア・カリエンテを午後遅く飛び立った時（ウェスタン航空の飛行機も、大体同じ時刻に出発しました）、天気予報では悪い予報ではありませんでした。しかし、雲高^{うんこう}がますます低くなりました。1機のパイロットは、このますます低く垂れ込めてきている雲の下を擦り抜けるのは、あまり好ましいことではないと考えて、引き返しました。ウェスタン航空機も同様に判断して、引き返しました。墜落した飛行機の3基のエンジンは、すべて完璧に作動していましたし、

(94) TAT社のマダックス三発機が、1930年1月19日、アグア・カリエンテからロサンゼルスに向かう途中カリフォルニア州オーシャンサイドで墜落。生存者はなかった。

機体が地面に衝突するまでは、火災は起きていませんでした。乗客は全員、タンクが爆発して火災を起こす前に、衝撃で即死しました。パイロットは（その遭難機の残骸の位置と、その状態から）不時着を試みたのではなく、引き返そうとしていました。でも、地面と地平線の境界を見失っていたのです。

これは、もちろん、すべてチャールズの声明からの引用です。お母さまは、おそらくそれを読まれて、気分が悪くなられたのではないかと思いますので、これ以上は申し上げません。このことを考える人は誰でも、それは「天候に因るもの」だったとはいえ、「パイロットは、そのような天候の中を出かけて行くべきではなかった」と感じていると、私は思います。他の2機は引き返したのです。おそらく、それを言うのは冷酷なことかもしれません。そして、私がお母さまにはそれを言うつもりなのですが、言うてしまった一つの理由は、このようなことが起きるといつも、私達の周りのいたるところで爆弾が破裂していて、次の爆弾は私達に命中するのだと、私には思われるからです（恐ろしく、弱気になって、迷信に捉われているほんの短い瞬間に）。

私はこの気持ちを、チャールズに対して認めようとはしませんでした。それは分別のあることでもなく、正気でもなく、論理的でもありませんが、お母さまの方が、私よりもっと勇気のある方だとはいえ、時々そう感じる事がおありだと思います。そして、私があの卑劣な爆弾が破裂するという考えを巡らす時には、座って落ち着き、なぜそのような事故が起きたのかを、自分自身に、もし必要ならば冷酷に、理解させようとします。そして、チャールズについて、二つの確かな結論を出します（お母さまはご存じのことですけれど、とにかく申し上げますわ）。

1 彼は、いつ引き返すべきかを知っています。彼は気象通報に頼らず、

どんな天候なら目的地まで飛ぶことが出来るかについては、自分自身で判断します。彼は天候を見ればわかります。どんな人も完全ではありませんが、彼はとても、とてもしっかりした人で、確かであれば、運にまかせたりはしません。

2 彼は、緊急の際に、たいていの人達がするように、最悪のことをするのはなく、最善を尽くす人です。

これは、軽率な手紙だと思います。チャールズなら、そう言うでしょう。もしかすると、焼却炉に投げ込むべき手紙かもしれません。

1930年1月30-31日〔母宛の手紙〕

カリフォルニア州サンディエゴにて

親愛なるお母様

毎日お母様のことを読んでいます。少なくとも、新聞に出ている代表団⁽⁹⁵⁾のことは。昨日、ウィル・ロジャースが、週末にどこかでお母様とパパとエリザベスと一緒にだったと、ラジオで言っていました。

エリザベスが『ロサンゼルス・タイムズ』に載った私を、じっと見ていた」というところは、とても素敵な響きがありました。誰かが私にロンドンから電話をかけてきて、

「昨日、エリザベスに会いましたよ」

って、言われているような気がしました。実際、ウィル・ロジャースのモロウに関するコメントは、彼から直接かかってくる電話だと、いつも思っているのです。

ウィル・ロジャースが、パパのことを話している時のパパの様子が想像出来ます。少しブカブカのズボンをはいて、パパがニッコリしている

(95) 父のドゥワイト・モロウは、海軍軍備縮小に関するロンドン会議（1930年1月21日～4月22日）の合衆国代表団の団員だった。モロウ夫人とエリザベスを伴って、ロンドンに向け1月9日に船で出発した。

のが目に浮かびます。ウィル・ロジャースの口調には、何かがあります。彼は「ブカブカのズボンをはいて」とは言いませんし、無礼でも何でもありません。でも……やっぱり、パパがブカブカのズボンをはいているのが目の前に見えます！

会議のことや、それに関するコラムを、毎朝念入りに読んでいますが、それはオレンジジュースを飲むために、オレンジを絞るのと全く同じです。あんなに一生懸命に絞って漉しても、ほんのちょっぴりのジュースしかとれません。実際、委員会が別の委員会を作って、その委員会が進行手続きを決定するためのもう一つの委員会を作っていること以外は、実は何の情報も得ていません。

そこで、私はウィル・ロジャースのコラムを読んで慰められます。

最高にエキサイティングな一日を過ごした後、ロサンゼルスに戻ってきました。グライダーに乗ったのですよ！ エリザベスが感激しますわ。コンと私が、彼女にドイツからグライダーを持って来てって懇願したことを、憶えていらっしやる？

チャールズの友達、ハウリー・ボウルズ⁽⁹⁶⁾がサンディエゴに住んでいて、“セイルプレーン”（高性能グライダー）と彼が呼んでいるものを作ったのです。それには、とても幅の大きな翼がついていて、機体は小さいのです（もちろん、エンジンはついていません）。それで、まるで大きなカモメのように見えます。素敵なデザインです。車輪がついていないので、機体のキールで地面をこすって着陸するのです。あれが、いわゆる船底の梁なのかしら？ ハウリー・ボウルズは機体を深い海のブルーに、先端が細くなっている翼は銀色に塗りました。

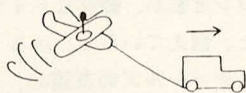
パイロットは、前方に座ります。一人分の席しかありませんが、グライダーの製作は安上がりですみ、飛ばすのにガソリンも必要ありません

(96) ハウリー・ボウルズは、1927年にサンディエゴで、チャールズの“スピリット・オヴ・セントルイス号”を建造した会社、ライアン航空社の製造所長であった。

ので、男性でも、女性でも、若い人達に飛行を教えるという観点から、ホウリーはこのプロジェクトにとっても興味を持っています。それに、これは動力飛行よりもずっと安全です。もちろん、スピードはゆっくりで、着陸もゆっくりと軽く、どこにでも数メートルの範囲で着陸することが出来ます。そして、将来パイロットになりたい人達にとっては、素晴らしい訓練になります。気流に関する知識を得て、エンジンが故障した時の着陸の方法を学べます。おまけに、とても面白いのです。

チャールズは一週間前に飛んでいましたので、私も試してみたかったです。それで、昨日、訓練用のグライダーを自動車の後ろに繋いで、飛行場を横切って引っぱってもらいました。グライダーを後ろにつけて引っぱりながら、車はどんどん速く走るの、機首を少し上に向けてと上昇するのです。それからロープを切り離すと、滑るように滑空します。

私は、上手に着陸が出来ませんでした。風船のように軽くはずんでしまい、ものすごく可笑しかったんですよ。



私の乗る“セイルプレーン”を発進させてもらうために、チャールズが一昨日、あの付近でソリダッド山と呼ばれる、海の傍にある、一番高い丘を見つけました。誰もあそこから飛んだことはありませんが、そこが最適場所だということがわかりました。急勾配の斜面が、障害物のない野原に続いています。それに、かなり広がりのある丘なので、滑翔するための上昇気流も得られます。チャールズは、私が飛ぶことが出来、それに怪我もしないという自信を持っていました。（“セイルプレーン”で怪我をすることは、まずありません。）

丘の頂上に着いた時、きれいな緑色の野原を見下ろして、“セイルプレーン”は断崖にとまっていた。とてつもなくいい気持ちになりました。男の人達全員がゴム製のロープを引いて、私を発進させようと待ち構えていました。カメラマンは全員準備万端整っていて、ショーに備えていました（当然のこのように）。

ホウリーは神経質に行ったり来たりして、私に、最後の無駄な指図をしていました。彼が私に何を言おうと、彼の言葉なんか憶えていないということはわかっていました。それに、空の上では私は本能的に行動するし、チャールズはそれを期待して、私に自信を与えてくれたのです。グライダーで空に浮かんだとたんに、私は自然に行動し、操縦装置は言うことをよく聞くでしょうし、フレッジュリング練習機⁽⁹⁷⁾で練習した後なので、やり方はよくわかりました。

それでも、私はコックピットに入り、チャールズが「準備、OK？」

と言って、それからホウリーが

「準備、OK？」

とゴムのロープを押さえている男性達に言った時は、生簀^{いけにえ}にされる寸前の子羊のような気分でした（それに、山の天辺^{てっぺん}だったんですもの！）。

（チャールズでさえ、私がたった一人で、今にも突き落とされようとしているのを見て、あの瞬間には「ものすごい快感を覚えた」と認めました。）

その時私は、「さあ、これは私の見る飛行の夢の一つにすぎないわ。山に変わりはないし、急勾配をずっと下まで、ただはばたいて、滑り出すだけよ」と、考えました。それから男の人達が走り出し、ロープを引っぱりました。機体のキールが摩擦できしむような音をたてているのが聞こえ、私は飛び上がりました！ あっという間です。

ああ、飛び立って、なんてホッとしたことでしょう！ 風はとても穏

(97) アンが少し飛行の教習を受けた、訓練機。

〔グライダーを飛ばすのに、パチンコ玉をゴムで飛ばすように発進したらしい。〕

やかで、機体は着実に上昇しました。私はもう怖くありませんでした。考える時間が十分にありました。機体は、操縦装置に文句なく反応しました。そして、それは非常に痛快で、非常に静かなものでした。私は自分の着地するルートを選びました（大体チャールズが教えてくれた通りです）。一つの丘陵に沿って滑空し、もう一つの丘に渡って、それから緑の畑の中へ降りるというものです。とても控えめなルートです。丘陵の斜面にあまり近寄らないように、私はソアリングをほんの少ししかしませんでした。この初めての体験で、私はそれを試してみたくなかったのです。でも、山腹の一つ一つのクレヴァスで、機体が気流に乗って上昇するのを感じました。

畑のかなり近くにきた時、鳥のさえずりが聞こえました。それから、畑の周りを回って縦の方向に機体に向け、地面に沿ってすれすれに飛んで止まりましたが、何の衝撃もなく、まるで、ほんの少し表面が凍結した雪を^{そり}滑るようなものでした。

私は飛び出して、尾翼を持ち上げて、着地で擦った時にどこかを傷つかなかったかどうか調べました（尾翼はとても軽いのです）。それから、道路を見ました。車が止まって数人が、こちらへやって来ました。

「私達、あなたのこと見てたのよ。この畑のこんな近くで、何をしているのかと思っていたの。飛行機だと思ったのよ。」

彼等は、ニコニコして突っ立っていました。

「どこから来たの？」

白いオーバーオール姿の私は、雲の中に浮かんでいるように見える山の方を指差しました。興奮した女性が、何度も何度も叫びました。

「彼女は大丈夫！ 大丈夫ね！ このお嬢さん、あの山からずーっと降りて来たのよ。でも無事なのよ！」

「どうやって、また上に行くの？」

〔ソアリングとは、上昇気流をとらえながら、高度を獲得して飛ぶ方法。〕

「ああ、私、もう上には行きません」

と、愛想よく、異常に落ち着いて、

「ここに来るつもりだったんです」

と、畑に植えられたばかりの豆を、グシャグシャに両足で踏んづけながら、私は言いました。彼等は戸惑っていましたが、私はとても落ち着いて、満足感でいっぱいでした。

チャールズが、この畑を山の頂上から指定したんじゃないでしょうか？ ぼら、私は着きましたよ、平気だったわ。道路のすぐ脇にいれば、彼はすぐに来てくれるでしょう。

でも、かなり長いことかかりました。私は、もっと長い間滑空していればよかったと思いました。もちろん、もっとソアリングもしてみてね。丘陵を飛ぶ時に、風をうまく利用しなかったので、飛んでいたのはたったの6分位。でも、機体がとてもゆっくり、なだらかに滑空したので、私の髪の毛はほとんど吹かれませんでした。ヘア・バンドをしただけだったのですが……。今は、コン、ドゥワイト、エリザベスに、これをどうしても試させてくてしかたがありません。⁽⁹⁸⁾

チャールズは、エンジンのついた飛行機よりも、これの方が純粋なスポーツだと、認めています。チャールズが飛んだ時、好奇心をもって、恐れたりせず、鷹がチャールズの乗ったグライダーの周りを飛び、彼は時々鷹達を上昇気流の案内に使ったと、ホウリーが言ってます。去年の夏とこの冬の飛行機事故で、私達は非常にふさいで、沈みこんでしまったので、この体験は、今特に、私には訴えるものがあったと思います。つまり、商業航空路の問題点と責任を語り、また考えるという雰囲気の中に、どっぷりと漬かっていたのです。

あらまあ、よくまあこんなに書きまくったものです。疲れ過ぎるなど

(98) アンは、アメリカで、グライダーのパイロットの免許を取得した最初の女性だった。

ということは、どうぞご心配なく。今日は少し疲れたと思いますが、単に興奮と早起きによるものですし、ほかには、悪影響を感じませんでした。

私達、いろいろな種類の記事で、新聞にまた悩まされてきました。

《チャールズが、産院の部屋を4月に予約した。赤ん坊は、すぐにも生まれるので、私達はロサンゼルスで、じりじりしながら待っている》等々。グライダーの噂が広まって、そんな記事はぶち壊してしまえばいいのに。

わかるでしょ。私はもうじき、おとなしくしていなければならなくなります。私達は、あと1週間か2週間のうちにニューヨークに帰りますが、その後は4ヶ月間、私は何にもしません。チャールズはパナマへの旅が控えています。

目下のところ私達の予定は、明日はサンディエゴ、土曜日から、丘陵の中のどこかで1週間、ホウリーとチャールズがグライダーを試すために出かけ、その後サンフランシスコへ短い旅をします。それから……家に帰ります。

1930年3月4日

ペブルビーチ

(チャールズがグライダーに乗る場所と風を探っています。)

親愛なるお母様

私が電報を打ったのは何故かという、お母様に会いそびれると嫌だったのです。私は今頃は、エングルウッドにいますと思ってらしたでしょ。

あのね、チャールズ達は飛行機に引き込み式の着陸用車輪を取り付けているところです。ということは、全く新しい翼を造っているのです。チャールズは、最初の飛行機にこれを取り付けることが出来るとは思っていませんでした。でも、引き込み式にすると、とても便利になるので、いつかは飛行機に取り付けたいと望んでいました。^{*33}着陸用の車輪が翼

^{*33} 当時の飛行機は車輪が機体の下に露出したまま飛行していた。翼の下に車輪が収納されると空気抵抗が少なくなり、スピードが出るという意味。この時チャールズは、水陸両用機「シリウス」を引き込み脚にしたかったが、技術的に間に合わず、アンズの希望したスライド式の風防天井は取付けることが出来た。

の中に納まると、飛行中のスピードがもっと出て、より新しい、整然とした、効率の良い飛行機になります。そのためには、大体あと3週間だけなので、チャールズは完成を待っていたいのです。

飛行機も、またそれに乗って彼がすることも、どれも、この機体の改造によって、もっと意義あるものになります。チャールズは、この製作所にまたいつ出かけて来られるかわからないのですが、3週間以上かかるのであれば、現状のままのその飛行機に乗って帰ります。チャールズは仕事に戻らなければなりませんし、私達二人とも、私がかもう一度ドクターの診察を受けた方がいいと考えています(私の体調は申し分ないのですが)。

私は、初のクロスカントリーの飛行で、ここサンフランシスコまでこのロッキード機に乗りました。技術者達が工夫して、透明のセルロイドのカヴァーを頭上に引くことが出来て、コックピットに天井がつきます。風が一切入ってこないで、本当に暖かいのです。真夏の真っ昼間の砂漠のと真ん中以外では、開放座席のファルコン機で暖かかったことはありませんでした。それから、コックピットの中がずっと広くなりましたので、いつも同じ姿勢で座っていなくてもよくなりました。それは、私にとって大きな贅沢です。(旅客機のような)閉鎖式の飛行機と同様に本当に快適です。それに、チャールズと私の座席の間に仕切りがありません。でも、私達の頭は、それぞれのコックピットから突き出るのです。だから、いつでも好きな時に、彼の背中をつつついて、大声で彼に叫ぶことが出来ます。

寒冷な天候用に、電熱線を通した飛行服を誂えました(電気パッドのようなもの)。そして、チャールズが、飛行機に小型発電機を採用しました。電熱服は前に試着したことがあって、火傷をしたり、シューシュー音をたてたり、感電したりするようなことはありません。この飛行機は、

騒音や振動も前より少ないのです。コックピットには、隙間風が入ってこないし、広いスペースがあるので、ランチボックス、魔法瓶、コート、クッションは、床にそのまま置けます。

要するに、ここからの帰りの飛行は怖くありません。長い一日になるかもしれませんが、夜通し起きていなくてもいいということです。私はずっと快適で、暖かく過ごせますし、おいしい食べ物を持っていけるし、眠ることも出来ます。それから、天候の良い時だけ飛びますので、神経を擦り減らすこともありません。飛行機に乗り込む時と、降りる時、それから寒さとの戦い、悪天候の中での恐怖、それに窮屈な姿勢が疲れるのです。ロッキード機と、これからの予定についてはこれだけです。

私は、いろいろな方達のことをお母様に、一番書きたかったのです。私がお目にかかった、お母様のお友達とパパのお友達のこと。

クーリッジ家の方達⁽⁹⁹⁾。私達は10分間程、ご挨拶をするだけのつもりでお邪魔しました。奥様が私の方にととても上品に、にこやかに近づいて来られ、私のことを「(あなたが、有名になっても) ほかの誰でもなく、あの“アン”としてしか考えたことがない」とおっしゃたの。それから家族のみんなのことも尋ねられました。ドゥワイトとコンスタンスのこと……。

大統領もとても優しく、新聞の漫画では、彼をああい風に作ってしまったけれども、全然話にくくもなく、貝のように無口な方でもありませんでした。実際、大統領は、私達がお宅にお邪魔している間ずっと、あの独特の辛口のスタイルで、とても面白い方でした。彼は、チャールズに向かって、

「あなたは、写真で拝見したのと同じぐらい、実物も立派に見えますね」それから、私を見ながら、

「あなたは、写真でお見かけしたよりも素敵です」

(99) カルヴィン・クーリッジ (アメリカ合衆国大統領1923~29) は、アムハースト大学でアンの父の同級生だった。

とおっしゃいました。チャールズと飛行の話をして、

「私達の選挙区に、何年間も共和党の上院議員がいましたが、ワシントンで飛行機に乗って墜落したお陰で、今では、その人の代わりに民主党の人が議員になっているんです。」

別の日の夜に、ウィル・ロジャースに会いました。12時過ぎまで、彼の敬服している人達に囲まれて座って話をしていました。彼は確かにパパのことが大好きで、とても温かい気持ちを込めてパパのことを話します。そういう彼が大好きです。彼は人物をそのままそっくり描写せずに、その人達について少し言葉を足して話すので、聞いている人には、その人達がよく目に浮かぶのです。あの「私は立候補しないことに決めました」という発表⁽¹⁰⁰⁾の後で、パパが部屋の中を行ったり来たりしたこと、ウィルとそのことで議論したことを、彼が話していました。パパがメキシコにいた時のことも、言っていました。音楽と陽気な歌と、いろいろな大きさのグラスがテーブルにのっているメキシコの晩餐会で、パパがとても愉快でにこやかだったそうです。それで、パパが輝くような笑顔でウィルを見上げ、

「こういう人達と戦争をするなんて、想像してみてくださいよ！」

と言ったんですって。ウィルが、とても上手に真似したので、私、パパのその時の眼が、ありありと想像出来ました。

ウィル・ロジャースは素晴らしい人だと、私は思います。鋭敏で明晰で、人々とその状況の中にある真実を確かめる試金石を持っています。その上、彼はとても親切で優しいのです。賢い人達はたいていそうではありませんもの。ですけれど、彼は賢いだけでなく、それ以上の人物です。彼がいろいろな人々に対して抱いている高い評価や興味は、非常に包容力の大きな、心のこもったものだと思いますか？

(100) 1929年の大統領候補指名の前のクーリッジの発表。

このペブルビーチで、お母様とパパのお二人のことを考えました。西海岸で、私が見てきた中で一番美しい場所です。大きな丘陵が直接海に迫り、断崖と岩の多い突き出た土地があって、そこにはよじれた糸杉の木が、べったりとまとわりついています。打ち寄せる波の白い線、そしてあちこちに白い砂浜に分け隔てられた岩があります。今は、とても緑の濃い景色ですが、黄色の花がいっぱいに咲いたアカシアが道路の上にたわんでいます。

ここから5分か10分のところにあるカーメルには、素敵なこじんまりしたコテージと、お花が一面に咲いている庭を持つ集落があり、そこは、芸術家達の村だそうです。エリザベスと私のための、魅惑的な小さな家を5軒位見学しました。私達はいつも、自分達が老いぼれたら一緒に暮らしたい小さな家を選んでいたものです。

本当にたくさんの山野草も咲いています。黄色いエニシダ、名も知らない青い花（たぶん野性のライラックだと思います）、それから崖に沿ってアヤメが、丘陵にはスマイルが花盛りです。カーメルで、ブリキの郵便受けに、R・ジェファーズ⁽¹⁰¹⁾という名前を見ました！ 彼がここに住んでいることは知っています。ブリキの郵便受けなんて、それほど“芸術家ぶって”暮らしていないのだと思います。

1930年3月30—31日

ロサンゼルスにて

愛するお母様

もう、ここで過ごす最後の週になりました（天候が許せば）ので、荷造りをしています。荷物を全部、送り返さなければなりません。ジャック・マダックス氏は、TATの会議に出席するためニューヨークへの旅を続けなければなりません。それで、奥様のヘレンが、明日の夜、彼と

(101) ロビンソン・ジェファーズ、詩人。

出かけます。彼等は私達を留守の間も、ここに泊めて下さいます。天使のようです。それから、家へ帰ります！

家に帰りたくて気が狂いそうです。落ち着いて、これから先6月まで、何もしないで暮らすためです。

誰も彼も、私が出産を控えているのを知っています。私が巨大に見えるからではなく、それに私は気をつけて洋服を選んでいきますから、みんな記事を読んだのだと思います（何度も、何度も載りましたから）。それから、私のコートとかスカーフで、妊婦だとわかるのでしょう。今まで経験したことのない、非常に行き届いた気遣いを受けています。私のために椅子を出してくれたり、荷物を持ってくれたり、（珈琲ではなく）ミルクを出されたり、長い階段では腕を貸してくれたり、等々……、私の健康に関する質問、産科医に関する情報等もあります。最初は、わずらわしく思いましたが、今はむしろ気分転換になり、時にはとてもおかしく、時にはとても嬉しいと思うこともあります。

ただ、飛行機に不体裁に乗り込む時に、空港で2列に並んだあのカメラの間をトボトボと歩いて行きながら浴びる、群衆の好奇心に満ちた目がとても嫌ですし、恐れを覚えます。でも、私はもう二度と、そんな目に合わなくてすむと思います。これで最後の旅ですし、早朝にはこちらから出かけますから、人の群れもないでしょうし、ニューヨークまで無着陸ならば、家に帰るためには、ニューヨークで最後に一回だけ降りればよいということになります。

ホテルを放浪することも無し、ロビーでクスクス笑われることも無し、チャールズが役人と話している間に待っていることも無しです。

この国の西海岸から東海岸までの横断の旅は、ゆっくりとする旅より、ずっと快適だと私は思います。私が心配する徹夜の旅も無いでしょう。日中に出発して、ロサンゼルス時刻でその夜の8時30分までに、ニュー

ヨークに着きます。天候が良いことを確認してから出発します。

1930年4月10日〔妹宛の手紙〕

ロサンゼルスにて

親愛なるコン

私達、懸命に航空術と取り組んでいるのよ。あと5分で、手紙をやめて、また航法にもどらなきゃならないの。優秀な航空士で同時に教官⁽¹⁰²⁾である方が、毎朝10時と毎晩7時半にみえるの。午後にも時々勉強しているのよ。チャールズもここにいる時には、勉強をするの。興味はあるし、すごく難しいというわけではないわ。

一つの限られた主題だけと取り組んで、他のことは何にもしないで、いつもそのことについて、ある観点から考えているということが、どんなに面白いことか忘れていたの。特に、誰かが自分と一緒に勉強していて、同じ言葉で考えている場合にはね。太陽と自分の間の角度を計測するためには、六分儀^{*34}とグリニッチ平均時に合わせた時計と、自分の代わりに球面幾何学の計算をしてくれて、自分の位置線を出してくれるいくつかの算数表と図表を使います。もし月と太陽、あるいは2つの星がある場合には、交差する2つの位置線から、自分がどこにいるのが正確にわかります。これには、ゾクゾクするわ。

私達の飛行方向が、予定通りのルートを飛んでいるのか、あるいは、はずれているのかを確かめるために、帰路にこれを使いたいと思っているの。でも、かなりの集中力を必要とし、我れに返ると頭が判断力をかなり失っています。例えば、チャールズが、私に日付を尋ねます。

C 「10日だよ。」

A 「そう、10日よ。」

(102) ハロルド・ガッティー。ワイリー・ポストの世界一周飛行の際の航空士だった。

*34 天球上の2点間の角度を測る携帯用の器械。太陽、月、恒星等の高度を測定して用いる。

それから、二人で笑ってしまったわ。二人共、グリニッチ平均時で考えていたことに気付いたからよ。グリニッチでは10日で、ロサンゼルスでは9日。それから、(これって、頭がこんがらがってしまいそうだけれども、たぶんあなたにはわかるわよ) 私はグラフや図表を使ってすごく勉強しているので、何でも交差する位置線に見えてしまうの。

夕べ椅子の上に、私の洋服をこういう風に置いたのよ。 そうしたら、チャールズが彼の服をこう置いたの。 結果は、 なのね。私はそれを見て、少しめまいがしたわ。

それから、「あなたは牛飼い座、そして私は北極星ね！」と言ったの。だから、私達が偏執狂になりつつあるのがわかるでしょ。

1930年4月10日〔母宛の手紙〕

ロサンゼルスにて

親愛なるお母様

昨日、お母様は家に着いたのですね。いいえ、一昨日でしたね。私もそこにいられたら、どんなにいいかしら！ 帰宅した朝に、トランクやバッグが奥の廊下中に置いてあって、イザベルが静かにサッサと、荷物の中にもぐりこんでどんどん片付けてゆき、イーディス叔母様が、

「ビー、全部教えてくれなくっちゃあだめよ。一番最初から始めて！」と、言っている様子を想像しました。それから、エリザベスが自分の教えている授業から急いで食事に戻って来て、椅子に腰をかけて、お母様のお話にあれこれと、面白い話を足していくの。

私もそこに居たくてたまらないわ。あまり急いで、メキシコへ帰らないで下さいね。私は、それを心配しています。飛行機は月曜日(ということは14日)に、テスト飛行出来るようになると、チャールズは言うて

いますから、その後なら、天候が良ければ、いつでも出発すると思います。もしかすると、3、4日はかかるかもしれないので、そうすると17日、18日、19日ごろということになります。この日付が少しずつずれ込むのがとても嫌ですが、もちろん、ここを出発する日のうちに、ニューヨークに到着することを望んでいます。大体、午前5時半頃離陸して、(そちらの時間で)10時頃着く予定です。

チャールズは現在、燃料補給のためセントルイスに寄る(30分)予定にしています(もちろん、秘密です)。一日中全速力で飛ぶだけのガソリンを積めないのです。もっと遅い速度で、燃料をなるべく消費しないようにすれば、ノンストップで行けますが、チャールズは(とても思慮深く)今回の飛行の目的は、ノンストップにあるのではなく、アメリカ大陸横断のスピードにあると考えているのです。そうなると、私達はセントルイスに全速力で飛ぶもっと速い記録を作り、それから全速力でニューヨークに飛ぶ記録も作ります。私もその方が好きです。そちらに着くのがノンストップで飛ぶよりも早いんですもの。

航法・航空機の位置を確かめて、進路を決める私の仕事には、とても興味があります。六分儀で太陽を見て、時間がわかれば、私達がどれほど飛行方向からはずれているかがわかります。ということは、飛んでいる時は、私の仕事がほとんどありません。ただ、太陽を見て、時間を記録して、地図を使って飛行位置を測定するだけです。でも、その前にかなり詳しく地図上に飛行ルートや地点を記入したりする準備作業が必要なのです。夢中になるほど興味深い仕事ですが、難しくはありません。ただ、私は掛け算が全然出来ず、ドルとセントの引き算が出来るだけなので、何時、何分、何秒と計算するのが苦手です。

午前中いっぱい、夜もずっと、午後には時々この勉強をしています。お手紙はこれくらいにして、家に送る荷造りをしなければなりません。

私がどんなにきちんと、手際よく荷物を縛るか、私がそれを終えた時には荷物がどんなに際立って見えるか、ご存じよね!

来週以降ということはないわ。お母様、そんなはずはありません。考えてみて、今日は木曜日、来週の木曜日には、私は家にいるかもしれないわ!⁽¹⁰³⁾



1930年5月12日 月曜日〔妹宛の手紙〕

エングルウッドにて

『ロンドン・デیلیー・ニュース』が、『4月に“跡継ぎ”が生まれたけれども、何かが起きた』という、ニューヨークで広まった噂に関して、電話をかけてきたの! 私に出来たことといえば、秘書の振りをして、「情報は、一切公表しておりません」と、落ち着いて答えることだけでした。

1930年5月16日

エングルウッドにて

大好きなコン

何日もの間、あなたのお手紙が、一点の明るいスポットライトのようだったのよ。ここでは、かなりの緊張があつて、特にパパに関係するもので、選挙戦、それに禁酒法問題⁽¹⁰⁴⁾——パパは、ルブリーさん⁽¹⁰⁵⁾や数え切れない程の訪問者達と、朝から晩まで、小さな書斎に閉じこもっているの、トーマスがお盆に簡単な食事をのせてあわただしく運んでいたわ。パパはとても自信をなくして、とても悩んでいたの。それで眠れなくて、お母様は衰弱するのではないかと心配していたし、お母

(103) 1930年4月20日、リンドバーク夫妻はロサンゼルスからニューヨークまで14時間45分で飛び、大陸横断の速度記録を破った。この時、カンザス州ウィチタで燃料補給をした。

(104) アメリカ合衆国上院のニュージャージー予備選挙での父ドゥワイト・モロウの選挙戦のこと。彼は禁酒法に関する演説で選

様自身もすごく気をもんでいたのよ。

それに、エリザベスも、快方に向かっていて、とってもきれいで元気そうなのだけれど、長い間安静にしていなければならないので、がっかりしているの。私達、エリザベスの部屋に、朝食のために集まって、「さあて、ここにコンから手紙がきています」と言って、取り合いになっていたのよ。

でも昨日、パパが苦勞して完成させた、あのスピーチが大きな成功を収めたので、いろいろなことが、良い方向に向かい始めたわ。夕べは、パパは満足して家に帰って来て、ゆっくり眠りました。

私、誰にも手紙を書く気にならなかったの。近頃の私はくたびれていて、昼寝を楽しみにしているか、昼寝から目が覚めたばかりで、ぼんやりしているかの、どちらかなんですもの。あなたに会えたらいいのに。あなたに会えば、もしかすると、私はもう一度^{はつらつ}潑刺とするかもしれないわ。今は、ただ疲れてて、だるくて、冴えないの。自分の身体が言うことを聞いてくれないかしらと本当に思うわ。きつい運動や穏やかなダイヴィングをして、私は素晴らしく若くて、痩せてピンピンしているのだと感じたいのよ。あなたが年をとれば、たぶん同じように思うわよ。身体が言うことをきかなくなるのだから……。

いつ、帰って来るの？ 毎朝、林の中を犬達と散歩するのよ。春が来るたびに、前にはそれほど気がつかなかった新しいことに、驚かされるの。今年は花水木が、とてもきれいな、まぶしい汚れのない白い花を咲かせている、その美しさに驚いたわ。あの花には、控えめな上品さがあるわ。大仰じゃなくて、滲み出るような^あ気品ね。輪郭がとても穏やかで……。涼やかな白が重なっているの。いつも、雨や露に洗われたように見えて、太陽の中できらめくのよ。

挙戦を開始し、憲法修正第18条の廃止と、酒類の販売、輸送、消費を調整する権限の州政府への回復を主張した。

(105) ジョージ・ルブリー。ワシントンの法律家、メキシコのアメリカ大使館の法律顧問。

大好きなコン

電話での私達の長い沈黙っておかしくない？ 電話なんて、仕事だけに使うものよね。ライラックが咲いているとか、ダッフィンがチャールズのことを認めるようになってきて、私達が散歩する時について来るんだとか、言えないわね。ダッフィンの頭の^{てっぺん}天辺のカールってかわいいわね。それから、あの子が近づいて来る時、耳をいっぱい広げて、後ろに少し寝かせて、頭を片方に傾けるの。かわいいわあ。(でも、ピーター⁽¹⁰⁶⁾のように、鼠みたいに頭に耳をべったりくっつけて、身をくねらせたり、ご機嫌をとったりはしないのよ。)

誰かがダッフィンのことを、「犬であることに満足している、文字通りの“犬”である」って言ってたの。要するに、リスを追っかけたり、自由に出かけて行っちゃって、散歩道を探検するし、家の中で暖炉のそばに座っていたりすることがあまり好きじゃなく、膝にのっけられるような愛玩犬でいるのは嫌なのね。それにいつだって、他の犬の3倍は汚れ気味なの。

それに比べると、ピーターは犬であることに満足していないのよ。あの子は、人間になりたいの。人が部屋に入ると、必ず注目を引きたいの。散歩の時は、人を放っておかないわ。時々、自分がそこにいることを気付かせるために、冷たい鼻を人のストッキングにくっつけたりするの。それでうまくいかないと、ピーターは吠えるの。それもイライラして吠えるのよ。あの子には人間と同じ愛情、嫉妬心、所有欲という本能があるわ。エリザベスの炉辺は、ピーターの炉辺でもあり、自分の私有財産と権利を侵害するものには「ウー—ッ」とやるの。

もちろんダッフィンも、愛情はもっているけれど、それは、自分を意

(106) 姉エリザベスの飼っているウェスト・ハイランド・テリア犬。

識していない、髪の毛がくしゃくしゃの少年のもつ愛情よ。その愛情を勝ち取るのは難しいけれど、とても誠意のある長続きする愛情なのよ。

こんな風に、何ページでも続けられるわ。彼等のことはよくわかるようになったのよ。ダッフィン^{ダッフィン}は私のことを好きだけれど、あなたを毎朝、最初に起こしに行っていた時のようには、私には喜んで飛びついたり、体を揺すったり、踊ったりは決してしないのよ。そう、ダッフィンは簡単に口説かれないのよ。そして、あの子の愛と憎しみは簡単には変わらないのよ。私があなたの^{こわいら}声色で、彼にうまく言い寄ろうとしても、あの電撃的な愛情のあふれた身のくねりは生まれないもの。

今日は午前中ずっと雨でした。エリザベスが、テニスと水泳と小川のそばでのピクニックに、10人の先生方を招いたの。泳ぐには寒すぎだし、テニスをするには濡れすぎだし、それで全員、ピンポン台のそばの囲いのあるベランダでお食事をしたわ。その間、パパは自分の〈兎の穴〉で、重要人物と会議をして、チャールズは、屋根裏を片付けるのに少しエネルギーを使い果たしたの。

アナ・フェイとラモントさん達が寄ってくれたわ。ルブリーさんは、ここに泊まっているのよ。私は、^{しぼ}萎んでぐったりしているし、チャールズは現在、静かに読書をしようとしているところです。彼は、心穏やかじゃないの、我慢強いけれども……。そして、私は爪を噛みたい気分よ。

まあね、「ベッシー・ブルックスにトミー・スヌックスが言いました。明日は違う日になるのさ!」とも言うからね。

1930年6月10日〔義母宛の手紙〕

エングルウッドにて

親愛なるお母さま

新聞の報道姿勢を考慮して、赤ちゃんについては「一切の発表を行うべきではない」と、私達は二人とも考えています。難しい状況ですが、場合によっては、新聞が報道する権利を持っていたとしても、行き過ぎを是正するために、極端な態度を取らなければならない——と、私は考えています。子供が無事生まれるまで、物事を静かに運べるかどうか、出生届が提出されるまで発表をしないことが可能かどうかはわかりませんが、私達は努力するつもりです。

実は、ハッケンサックがニューヨークから、お母さまに暗号文を送る用意をしたかったのです。チャールズが提案したのは、大変にビジネス調の電文です。女の子だったら、

“Advise accepting terms of contract.”

(「契約条件受け入れを通知す。」)

男の子の場合は、

“Advise purchasing property.”

(「資産購入を勧める。」)

で、両方とも送信人はルーベン・ロイドです。どうしたら、記憶しておけるかはわかりませんが、最初の暗号文には、頭にAがつく単語が2つ入っています。そして、女の子ならアン (Anne) という名前にしようかと、私達は考えています。もちろん、男の子の場合には、その名前が何になるかは、疑問の余地はありません。最初から、決められていましたもの。全く同じです。それしかない、と思われませんか?

ああ、もし男の子でなかったら、とてもがっかりなさいますか? チャールズは、落胆すると思います。彼は思慮深いので、そうは言いませんが、「どちらでも構わない」と言うのです。ごめんなさい。でも、こればかりは、私にはどうすることも出来ません。

今晚までに、このお手紙をニューヨークに届けたいので、これで止め

なければなりません。特に急ぐようなことでもありませんが……。ドクターは、差し迫っているとはおっしゃいませんでしたが、とにかく、お母様に暗号をお知らせした方が良くと思いました。

私達は、パリセード通りのある土地を見ているところです。崖の真上にあります。チャールズが気に入っていて、野性的で荒れたままだと言っています。赤ちゃんが、ハドソン川に転がり落ちるのではないかと、少し心配していますが、チャールズは、「リンドバークなんだから、そんなことにはならない」と言っています！

1930年6月23日と24日⁽¹⁰⁷⁾

エングルウッドにて

親愛なるお母さま

私はとても幸せです。チャールズが「資産購入」と打電して、お母さまからのお返事の電報をいただいた時には、とても嬉しゅうございました。もう、お母さまにはこちらにいらしていただき、赤ちゃんと私達の様子を見ていただきたいのですが、いらしていただけますか？ ずいぶん前に、このことを私達（チャールズと私）は話し合っていました、予備選挙のような、非常にてんてこ舞いの時期がすんだら、お母さまにぜひいらしていただきたいと思っています。それに、明日からは、子供の誕生に関する新聞の興奮した報道も消えるでしょうから……。お母さまの方に、あまりご迷惑がかかっていなければよいと思っています。

これからは、家の中もだんだん静かになるでしょう。弟が今朝、メインに発ちました。父は1日か2日のうちにメキシコへ発ちます。姉と妹は、月曜日にメインへ行きます。お母さまが、静けさを必要としていらっしゃるというわけでもないのですが！ でも、にぎやかな人の出入

(107) 赤ちゃんは、6月22日、アンの誕生日に生まれました。

りの激しい鉄道の駅のような、とてつもない雰囲気の後では、とても気持ち良くて、安堵しています。

1日か2日のうちに、チャールズがお母さまにお電話をして、こちらへいらっしゃる時のことを打ち合わせすると言っていました。とても静かだというだけでは、お母さまにとっては、もちろんあまり面白くないのではないかと考えておりますが、チャールズにとっては、とても楽しみにしている大事なことなのです。そして、私もお母さまにとってもお目にかかりたいし、あの子を見ていただきたいのです。

さて、あの子について、私からお知らせしなければなりません（軽率かもしれませんが）。初めて、子供に直面した時は、「あらまあ、私みたいな顔になっちゃうわ。髪の毛が黒ずんでいて、顔中、鼻だらけ……。」と思いました。でもその後で、チャールズの口にそっくりなことと、顎に間違えようのないくぼみを発見しましたわ！ それで、私はとても幸せな眠りにつきました。

早くいらして、赤ちゃんを見て下さいませ。

これを書くのに、長々とかかってしまいました。少しずつ継ぎはぎのように、書き足しながら……。それにしても、あの顎のくぼみのことを、お母さまに是非お知らせしたかったのです。

1930年7月30日〔姉宛の手紙〕

エングルウッドにて

最愛のエリザベス

あなたのお手紙を二度も繰返し読んで、胸が痛みます⁽¹⁰⁸⁾。あなたに、とても会いたいわ。長いこと、あなたとお喋りがしたいのです。あ

(108) 姉のエリザベスは、心臓弁膜に損傷があったが、これは子供の時に罹ったリウマチ熱に原因している。彼女には、“心臓の雑音”と呼ばれるものがあった。この場合のように、彼女は時折、心臓発作を起こしたり、活動をかなり制限されたが、当時は彼女の状態が重症であるとは、認められていなかった。

それはとても勇気に満ちたお手紙だと思います。がっかりしている手紙でさえありませんでしたが、あなたが最もつらい、希望を失わせるようなことを経験したこと、最高につらい孤独感を味わっても、それでもなおしっかりと、落ち着いて、決然としていたことを感じて、私は心が痛くなりました。あなたが、この病気とたった一人でずっと戦ってきたと、思いたくありません。あなたが一言も、この病気については言わなかったことはわかっていますし、あれは本当に強さを感じるお手紙ですが、その強さそのものが、あなたがどれほどのことを越えてきたかを、私に実感させるのです。

ああ、エリザベス。あなたのことを、とつてもたくさん考えたのよ。まず、あなたには隠れた強さがあると私は確信しているから、そのことを言いたかったの。誰にも、この気持ちをゆるがすことは出来ないわ。あなたは、今もこれからも、本当に強く健康な女性であるように創られたのよ。もちろん、あなたはそんな印象を人に与えるわよ。誰も、あなたのことを弱々しいとか、病気だとかは思わないの。それは、単に精神的にということとは、わかっています。一時的に力を使い果たして、あまりたくさん絞りとりれたのだけれども、でも、あなたには生来の強さがあると、私は確かに感じています。

私達が、その治療法さえ見つけることが出来れば、その上に建てられる土台は確かなのです。ドクター達だけが、その方法を教えてくれることが出来ます（フォスター先生が、いろいろな症状について、別の意見を他の先生にきいて下さればいいのにと願っています）。おそらく、それは規則的な運動とか、休息とか食べ物といった、積極的な養生法かもしれません。

それに、長くかかることはない、私は思います。エイミーおば様は、時間について素敵なことを考えています。

「若い人達は、半年とか一年を長い時間だと考えるけれど、人の健康な一生に比べれば、そのくらいどうということはない」

と。それから、それが必ずしもあなたの学校の仕事に、支障をきたすかどうかについても、私はそんなことはないと思うわ。しばらくは、活動的ではない役割を果たせばいいのではないかしら）。

チャールズのこと。そうその通りよ。彼が、そばにいてくれるということは、素晴らしいことよ。それに、彼は思いやりがあって、忍耐強く、言葉には尽くせないほど大切な人です。そして、私は幸福よ。子供が生まれてからずっと、とても、とても幸せです。私の病気は、本当に大したことはなく、熱も痛みもありません⁽¹⁰⁹⁾。この幸福はもちろん、あの子のお蔭ですが、でもそれ以上に、チャールズのお蔭です（もちろん彼等は二人とも、共に混じりあっているの、分けて考えるのは愚かなことです）。そして、この幸せは最高に素晴らしいものです。でも、あなたもこの幸せを掴むわ。私はわかるの。

そこから、水を汲み取るためのあの深い幸福の井戸もなしに、あなたは、自分の病気をたった一人で耐えています。でも、あなたは幸福の井戸を手に入れます。そして、あなたの方が、人に与えるものを私よりももっと多く持つことでしょ。あなたが教えたり、今は学校を運営したりというように、仕事をして来たというその事実が、あなたが私よりも大きく強い人で、与えるものをもっと持っていることを物語っています。そしてそれは、幸福の井戸をより豊かなものにします。あなたはきっと、それを手に入れるわ。

エリザベスへ

私は今日起きていて、外の日陰で赤ちゃんの隣に座っているので、1、

(109) アンは、乳房に切開を必要とする膿瘍ができた。彼女の病気で、母のモロウ夫人は、エングルウッドに滞在した。

2行付け足さずにはいられません。外は実に美しく光り輝いています。ずっと家の中にいたので、外の明るさに、私の目が慣れません。いろいろなものがぼんやりと見えて、私の足の爪先に小さなコオロギがいるのと、クローバーが生えているのが一番よく見えます。櫛の葉はきらめき、風がその葉っぱを乱して、小さく波打っているようだわ。

明日は、傷の処置のため町に出かけます。土曜日に、カミングスさん⁽¹¹⁰⁾が帰ってしまいますし、私は時折、傷の処置をすればいいだけで、あとは完治したと言われました。

お母様は、間もなくそちらへ行く予定です⁽¹¹¹⁾。そして私は、さ来週の週末に行きたいと思っています。まだ、はっきりわかりませんが……。お母様自身のためにも、あなたのためにも、お母様がそこへ行くことを、私は嬉しく思っています。ここにいてもらったことで、気がとがめていたのですもの。でも、お母様にはとてもお世話になったの。あの子がちょっと病気になるって（大したことはなかったのだけれども、子供に何かが起きるなんて、涙が出たわ）、お母様があの子を小児科に連れて行ってくれて、先生とお話をして、私達も安心させてくれました。

ああ、あの子は、今とっても面白いのよ。毎日一度か二度、抱っこして彼に話しかけると、とても大きな青いあの子の目（大きく開いて、好奇心いっぱい）が、私を見てニコニコ笑うのよ。そして、チャールズみたいに、顔をクシャクシャにして喜ぶのよ。もうじき、あの子をきれいにして、服を着せてから、ミルクをあげるのよ。体重が順調に増えているわ。彼、今はおなじみのハイランド・フリングの姿勢で寝てるわ。片方の手を頭の上に、もう片方を胸にのつけてね！

昨日は、あなたの本棚から『モンテッソーリ教育とお母さん』、『普段の子供と毎日の問題』（トム博士著）という本を見つけて、むさぼり読み

(110) 看護婦のマリー・カミングス。

(111) 姉のエリザベスが静養していた、ノースヘイヴンへ。

をしました（でも、棚に戻しておくわね）。私は、怒り、嫉妬、親指のおしゃぶり等について書かれたトム博士*の本を、実はもっと読んで、ちびチャールズの何年も何年も先のことまで把握しました。それから、6歳のアリスについても読みました。全部が、慎重に共鳴しながらも、ほとんどワトソン⁽¹¹²⁾の説に追随しています。トム博士には、健全な（中味のしっかりした）良識があり、モンテッソーリの考え方は啓発的で、視野を開かれます。

彼等は、一様にかまわれすぎた子供と、その子供の難しい人生に、恐ろしくとりつかれているように思えます。私は、子供を全然“甘やかし”たくありませんから、たぶん私がどこかおかしいのかもしれませんが。私は、あの子に話しかけたり注目してもらうことは好きです。それから、あの子はあまり触れられるのが嫌いで、自分のげんこつを蹴るように、または、打つように振り回すから、たぶんあの子もどこかおかしいのかもしれませんが。ワトソンにとっては、もう一つの母子の異常心理ですよ！

でも、あの子は話しかけられると喜ぶし、好奇心があって、私の言葉をよく聞いてくれるのよ！

1930年8月3日 日曜日〔妹宛の手紙〕

ロングアイランドのポート・ワシントン、ファレーズにて

（月曜日にまたあの子に会います。）

愛するコン

ついに、私はやってきました。復活だわ。今日は、空も海も青くて暑い日です。ポーチから見ると、どこで海が果てるのか、どこで空が始まるのかわかりません。海と空の出会いところに霞がかかり、ぼんやりと青くなっています。それでも、海と遠くにいるあざやかな帆船を見てい

(112) ジョン・ブローダス・ワトソン、アメリカの心理学者で、行動主義の擁護者。〔トム博士（1887～1951）はアメリカの精神科医で、モンテッソーリ（1870～1952）はイタリアの児童教育者。〕

るだけで、すこしは涼しく感じるわ。遠くに心地よいモーターボートのブーンという音が聞こえ、私達の窓の下の方の岩の上に打ち寄せる波が、柔らかなパシャパシャという音をたてています。

面白い、魅力的な新しい考え方の持ち主達に、また会えることは、実に嬉しいものだわ（私の実家の家族が、そうではないというわけではなく、新しさというものは刺激的なの）。ブレッキンリッジ夫人⁽¹¹³⁾は、教育、子供の育て方等については断固としていて、才気潑刺としていて、夫人のお話を聞くと、愉快になるわ。それから、あの上品さ——精神も肉体も、キャロル・グッゲンハイム夫人の持っているような正真正銘の優雅さで、同じ部屋に座っているだけでも、何と心楽しいのでしょうか。それに、聡明で、広い国際的な視野を持った男の人達が話しているのを聞くのも、楽しいの。豊かな、引き締まった会話、それはまるで、きれいに裁断された、円熟したきめの細かい材木のようなだわ。

私はこの世界を、ただ座って、むやみに目をパチクリさせて見ているだけ、まるで起こされたばかりの時のように物憂く、緩慢に……。私は何も言いませんが、楽しんでいるのです。

チャールズは、ご機嫌がすごくいいの。その証拠に、

- 1) 私が帽子をかぶったまま、家に入ることを許しません（本当に馬鹿みたいに、クスクス笑いながらの帽子をめぐる乱闘をしました）。
- 2) ブレッキンリッジ大佐とグッゲンハイム氏が、カヌーに乗ってゆるやかに漕ぎ出すのをひっくり返しました。
- 3) 私に、ストッキングをはかせないようにしました。

今週は、私達、プリンストン⁽¹¹⁴⁾に行きたいと思っています。ブレッキンリッジさんの奥様が、あそこには最高に美しい古木があるとおっしゃっていたので。

(113) 陸軍省次官（1913～16）、法律家、チャールズの法律顧問で友人である、ヘンリー・ブレッキンリッジの妻。

(114) 家を建てるための土地を探して。

1930年8月20日〔義母宛の手紙〕

エングルウッドにて

親愛なるお母さま

またご無沙汰してしまいましたがお母さまにお知らせすることがたくさんあります。でも私は、ベッドから飛行機に飛び乗ったのです。ほとんど、それに近いのです。私の健康が回復した途端、私達は飛行を始め、帰ってきたばかりです。

オチビさんは、私が母乳を与えていた時よりもずっとよく体重が増えています。たぶん、胸の膿瘍が、それと関係あったのかもしれませんが。いずれにしても、あの子は申し分なく元気で、痩せてなどいません。それから、あの子の髪の毛が生えてきて、明るい色の髪の毛がうっすらと、頭を覆っています。あの子の目は大きくてブルーです。私の目の色ほどは、黒っぽくありませんが、チャールズの目のブルーとは、まったく同じでもありません。そして、あの子に話しかけると、チャールズにそっくりの満面の笑顔を見せてくれます。

思った事を全部は書けないとは思いますが、——私達の気に入った丘を見つけることなのですが、明日、あそこで、何が売りに出ているかを調べようと思っています。

チャールズが、近々（すぐに）デトロイトに寄るようなことを、夕べ言っていました。彼は、前にその話をしていましたが、今回はロサンゼルス（注）の飛行レースに参加すれば、もしかすると、その時の短期滞在とをつなげて、そちらに寄れるかもしれないと考えています。とにかく、飛行レースに行っても行かなくても、いずれはデトロイトに何うつもり

です。私もメダル⁽¹¹⁵⁾をお持ちします。お母さまも、その浮き彫りがとても美しく、チャールズそのものだと、思われるのではないかと思います。

でも、私達はあの子を飛行レースに連れて行くことは出来ません。お母さまが、またこちらにいらして下さるわけにはいきませんか？ 少しあとになっても……。こちらは、私達だけですし、あまり暑くありませんわ。

お母さま、私がワシントンでやってしまった恐ろしいこと、ご覧になりましたか？ カメラマンや映画を撮影する人達の真ん前で、何百台というカメラが私の足にピントを合わせている時に、私は飛行機に乗り込むのに、ものすごく馬鹿なことをしてしまいました。飛行機の段が高すぎましたし、おまけに私は、ホワイトハウスの昼食会で着なければならなかったドレスをそのまま着ていました。ズボンをはいているべきだったのに……。結果は、群衆からの大笑いを引き起こし、面白いニュース映画の場面が撮れるので、映画撮影をする人達を喜ばせただけでした。

1930年9月9日

エングルウッドにて

親愛なるお母さま

あの夜は、お母さまのことを思いました。霧の深い夜でした（デトロイトからの帰りの飛行）。でも、チャールズは、電報は打たないと決めているのです。でも、あの夜のようなことがあって、私は良かったと思っています、とても怖かったのですが……。

ご存じですよね、私達は悪天候でも引き返した事が一度もありません。そのために、いつかそのうち山に衝突することもあるかもしれない、と思いつけていました。でも、今回は引き返しましたので、私はホッとして、安全に感じています。彼は、いつ引き返すべきか、いつ安全に前進

(115) フーヴァー大統領からチャールズに贈られたアメリカ合衆国議会金メダル。

するかを、心得ているのです。私達は一度も危険な状態にはなかったけれども、もし強硬に飛んで行っていたら、一か八かの賭けをしていたことになったかもしれないと、彼が言っていました。

あの子は、倍の大きさになりました！ 本当にそうなのです。それに、きれいに日焼けしています。

私達は、九分通り土地を見つけました。きれいななだらかに起伏する景色、大きな樫の木、林、家（想像上の家です）の真ん前に野原があり、常にそよ風がその丘に向って吹いておりますが、ただ、そこが手に入るかどうかはまだわかりません。

1930年9月29日

ファレーズにて

この1、2週間に、いろいろなことが起きました。今は、私達はグッゲンハイム家におりますが、ご高齢だったダン・グッゲンハイム氏⁽¹¹⁶⁾が亡くなられたところです。とても立派な方でした。お母さまは会ったことがありでしたか？ チャールズは、人徳において、グッゲンハイム氏とマイロン・T・ヘリック大使を比べていました（お二人は、大変違う方達ではあると、言っていますが）。そして、グッゲンハイム氏はチャールズのことを大変大切にしてくださいました。これは、もちろん避けられないことではありましたが、それにしても、とてもつらく、ショックでした。特に、最後までとってもお元気に暮らしていらしたものですから……。

お母さまに、プリンストンのことをお話したかったのです。いろいろなことが、突然に決まったのです。小川と野原と古い樫の木がある、あの丘を買いました！⁽¹¹⁷⁾でも、チャールズは、まだほかにも探しているのです、これは秘密にしておきたいのです。プリンストンから19分で、常

(116) ダニエル・グッゲンハイム。鉱業界の重要人物。ダニエル・グッゲンハイム航空学振興財団の創立者。ロバート・ゴダードの実験の支援者だった。

(117) ニュージャージー州ホープウェルの近くで、後にハイ・フィールズと命名される。

時、そよ風がこちらに向かって吹いており、素敵ななだらかな起伏のある景色が見えます。それから、私達はプリンスストンから5分の所に小さな農家を借りましたが、その前には、着陸するには十分な広さの原っぱがあります。私達は1、2週間のうちに移るつもりです。

私達の家ですわ。想像してみてくださいな！ 私、もちろんチャールズもですが、お母さまに、出来るだけ早くいらしていただきたいと思っています。でも、ちゃんと家具が揃っていないくて、上手に暮らせていなくても構わなければ……のことで、私にとっては初めてのことで、毛布やシャツやタオルや台所用品等を、買わなければなりません。快速の通勤列車（朝と夕方）で、ニューヨークから1時間と5分かかりますが、私達は、車で2時間位でここへやって来ます（あるいは1時間45分）。この家は町はずれの静かな道路沿いにありますが、その道路からは奥に入った所にあつて、大きな木に囲まれています。それに、ガレージまであるのです。完璧でしょう？

それから、カミングスさん（カナダ人の正看護婦、憶えていらっしゃるですか？）が、この冬戻って来て、私達の所に住み込んでくれると言っておりましたので、あの子を彼女に預けることが出来るので、私はとても満足（というか、安心）しております。

あの子は今、お母さまにいただいた洋服を着ています。それから、新しい大きなベビーベッドには、シルクのキルティングの掛け布団を使っています。ぴったりと合っています。お母さま、早くこちらにいらして、どうやって上手に暮らすのかを教えてくださいませんか？ 明日はメイシーズ百貨店に行つて、一日で、全部の買い物を済ませるつもりです。そんなことは不可能ですね。そういうわけで、たくさんのものが足りない家の中で、私達は生活を始めてしまいます。

昨日は、プリンスストンに行つて土地の売却の話をしました。彼はとて

もよい方で、元気な息子さんと娘さんと素敵な奥様がいらっしゃるのです。その方の名前が“ランド”でした。それで、彼がロバート・ランドの直系の子孫で、彼の一族はカナダのハミルトンから来たこと、チャールズと彼の曾祖父は同じ人だったということがわかりました。驚きでしょう？ それについては、チャールズがお母さまにお話したいと思っています。チャールズは元気にしていて、土地のことでは満足していますし、そこを手入れして、造成することに興味を燃やしています。

1930年11月

プリンスストンにて

私達はここ数日、ほとんど毎日、あるいは毎晩、ニューヨークに出かけて行つてますが、今は大体落ち着きました。そして、ここは愛すべき小さな家です。

最初の夜に、お母さまにお手紙を書きたかったのですが、私達はとても疲れてしまつて……。どんなに楽しいところかを、お母様にお知らせしたかったのです。ここは本当の農家で、周りにはかつて乳牛や鶏等を飼っていた建物があります。私が家を片付けている間に、チャールズは長いこといなくなりました。彼はとっても汚くなって戻つて来ましたが、バスケットにいっぱい卵と、ふすまの飼料を持って嬉しそうでした。それから、彼が発見した6羽の小さな黄色の子鴨のことでとても興奮していました。

我が家には敷物がありません。それで、お母さまの見せて下さった素敵な2枚の敷物を思い出しました。あるいは、あれは私達のためじゃなかったのでしょうか？ もしかすると、あれは誰か他の方のための贈り物だったのかもしれませんが……。贈り物のことでは、人は時々気が変わりますもの。お母さまは、私達に本当にたくさんのものをくださいま

したものね。とにかく、あの敷物は素敵でした。それで、お母さまが本当に手放したいというお気持ちでしたら、きっと2枚共私達の家を、きれいに明るくしてくれると思います。

でも、そんなことはどうでも良いのですが、大事なことは、いつ私達に会いに来て下さいますか？

お客様用の寝室は、ちゃんと家具が整っていて（借り物ですが）、お待ち申し上げております。私達の家には客室は一間しかありませんが、伯父様もいらっしゃるのなら、一つ余分の簡易ベッドがあります。そうなれば、とてもステキです。ここは本当の田舎で、静かです。それから、大きな暖炉があります。

あの子は、ずっと大きくなりました。チャールズの^{まつげ}睫のように、長い睫をしています。そして、大きな声で笑い、面白い音を出します。お母さまが、あの子を見て下さるのはとても大切なことです。

私達のところには、地味ですが、好感の持てる夫婦が手伝いに来てくれています。チャールズは、給仕をしてもらうのではなく、農家風にあらゆるものをテーブルの上に置いてもらいたがっています。

お母さまが、もしいらっしゃることが出来たら、きっと気に入って下さいます。

1930年11月10日〔妹宛の手紙〕

プリンストンにて

愛するコン

ここは、アイビーリーグのフットボールの試合一色です！ この間、町の中の興奮した空気を感じたわ。晴れた寒い日、黄色い葉っぱが風に吹かれて散り、人々も同じように吹きまわれ、ダービーシューズに赤

い羽をつけた男の人達が、女の子達に急いで道を渡らせて、それから遠くに楽隊が聞こえました。ここの老婦人達は、大きな試合の日には大いに胸をときめかせて、社交行事に活気づくの。ランチ、お茶、プリンストン大学のキャンパスへの“パス”。

「ねええ、みんなが行進してくるのを見逃したらたいへんよ！」あなた、いつ私達のところに來られるの？ 今日は、私は球根を植えたの。黄色と赤のチューリップ、球根の周りの土を軽くたたいて固めたわ。それから、最近になって小さい芽が出てきたクロッカスも。私の手はまだ、葉っぱと球根の乾いたもろい皮と腐葉土の匂いがしているわ。

ここには、とてもグッとくる本屋さんがあるの。それで、そこの店員の男性が、私達と全く同じようにキャサリン・マンスフィールドにイカレているのよ。全部、読んじゃったんですって、私達よりもっとすごいんだから。『アテナイウム』の中の、彼女のもののいっさいがっさいよ。初期の頃の学校の話とか、その他のものもね。私達はすっかり話し込んでしまったわ。彼は時折、突然叫ぶのよ。

「それで、あのJ・M・マリー^{*35}のあんな奴が……」

って。それから、キャサリンについてのゴシップもいっぱい話したのよ。

あなたも私と一緒に、是非行きましょうね。

1ヶ月もペンを持たなかったのよ。これって、とてもいい気持ちで、落ち着くような気がするわ。

感謝祭のこと。私達3人は、その1週間前から感謝祭のディナーのちょうど後まで、エングルウッドにしようと思っているの。でも、その後の週末は駄目なのよ。というのも、チャールズのお母さまがこの時しか私達のところに來られないので、ここに来ていただくの。もちろん、あなたにはいずれにしも、水曜日の夜に会えるわ。でも、1日はプリンストンに来てくれないかしら？ 夜だけでも、食事だけでも駄目かしら？

*35 キャサリン・マンスフィールドの夫。キャサリンは、彼が編集していた雑誌に、評論や書評を寄稿していた。

客間は一つしかないけれど、居間の一つに簡易ベッドを入れて、カーテンを吊るしたりとかは出来るわ。

ここは本当に静かで、平和よ。そして、考えたり、仕事をしたり、お話をしたり、いろいろな人とお付き合いを楽しめるわ。(エングルウッドのことに、あなたが言ったこと憶えてる？ それから、「一族が、あそこには全然集まらなかった」って言ったことも。ねえ、ここでなら集まることは確かよ。)

行かなくちゃ。うちのおデブちゃんを連れに行かなくちゃ。納屋に寝ているのよ。大きなガラスのドアが二つあって、日光が入るけれども、隙間風が入らないようになっているの。あの子は、ブルーのニットの上を着ているわ。「抱っこして」という風に両手をあげるのよ。そして、チャールズが、「たかい、たかい」をして、飛行機の真似をすると笑うのよ。

チャールズ・ジュニアをあやすアン。一九三〇年。



1931年

25歳



1931年8月26日、ロッキード・シリウス号でアラスカ、千島列島、根室経由で茨城県の霞ヶ浦に飛来した。